

★プロット★ ※誤字脱字雑説明注意。

- 0、開場中、チョコ太郎が面白トークを交えつつ場内整理をしている。開演時刻。チョコ太郎の後方に、喪服姿の佳子と光鈴、登場。佳子は泣いている。光鈴は悲しそうな眼をしている。佳子、泣かない光鈴を泣きながら咎める「お父さんが死んだのよ！？どうして貴女はいつもそうなの……？」「……ごめんなさい」「顕吉さん……私……どうしたら良いの……？」気まずい空気。チョコ太郎、頭を抱え、壁の中に消える。暗転。
- 1、不動産会社社員の庵、登場。もうすぐ寿退社する旨をさりげなく自慢しつつ電話応対。電話先の洋美、登場「高級マンション買いたいんですけど！？」「はい？」
- 2、洋美、今までの不幸な人生を語る。庵、相槌を打つ。※他の登場人物達、代わる代わる登場。代役や本人役を務める。両親からの寵愛を一身に受けて育った姉の佳子と比べ、物凄く適当に育てられた事、何故か自分ばかり不幸な目に合っている事、なまじ器用貧乏なせいで苦しんでいる事に誰からも気づいてもらえない事、素直に弱音を吐いたら周りの人達があっさりして去っていく事、本当に欲しいものは何一つ手に入らなかった事、そんな色んな地味な不幸を経て「最初から何も期待しなければ傷つく事もない」とい事にようやく気付く。「私は、ちょっと汚いだけの、普通のアヒルの子だったんです」「良かったじゃないですか」「良くないです。私は、自分も醜いアヒルの子だと信じていたからこそ、ここまでやって来れたんです。両親も姉もそう言ってくれてました。なのに、実はちょっと汚いだけの、普通のアヒルの子でした。なんてクソつまらない事実、今更受け入れられると思いますか？」「はあ」
- 3、欲望から、贅沢から解放されたい。しかし、いきなり世捨て人になってしまったら周りが心配する。それこそ、姉の佳子と同じかまってちゃんになってしまう。なので、あえて自分には分不相応な高級マンションを購入し、外側は贅沢している様に見せかけて周りを安心させつつ、内側ではローン地獄で生活費カツカツというストイックな生活を送りたくなったんです。でも、やっぱりちょっと怖いな一つ。あの、どうですかこれ？大丈夫だと思いますか？と、滅茶苦茶面倒臭い事をのたまう洋美に、庵は事故物件を勧める。「夜な夜な男の幽霊のすすり泣きが聞こえてくるとか」「なるほど。ますます良い修行になりそうですね！」「あはは。でもですね津島さん。幸せは、頑張っていればいつか必ず辿り着くものなんですよ。だから、気が向いたらまた、よりを戻してあげてくださいね」「何とですか？」「うーんと、贅沢と？……あ、贅！」「はあ」
- 4、「ぜいはあ、」オープニング。オープニングのラスト、亜耶と光鈴の会話「私達、もう、昔みたいには戻れないのかな……」亜耶、カエルで返事「ゲロゲロ」2人、去る。
- 5、マンションを購入し、職場の後輩の野乃花から家具を貰い、超浮かれている洋美と、何故か急いでいる様子の野乃花。「ありがとう！でも良いの？こんな立派な家具を戴いちゃって」「良いんです。私、先輩の事、本当に尊敬してるんで。じゃあまた会社で」「え、お茶でも」ダッシュで退場する野乃花。洋美、一人でマンションをエンジョイしようとして「いけない。贅沢とは距離を置いてたんだった。ああ、良い！この苦み、凄く良い！！」と、よく分からない自問自答を繰り返す。「うん。今日も良い孤独」
- 6、佳子（回想）登場。美鈴がもうすぐ結婚する旨を伝え、寂しいから実家に帰っても良いか、両親は私の事を何と言っているかを洋美に問う。曖昧に答える洋美。佳「洋美はちゃんと、幸せにならなくちゃ駄目なんだからね？」洋「……」

- 7、洋美に亜耶からのLINEが届く。亜「引越し、終わった？」洋「終わったよ」亜「お疲れ様。ねえ、そっち行って良い？」洋「そっち？」亜「うん」洋「良いけど、いつ？」と、ここで、男のすすり泣きが聞こえてくる。「結婚したい……結婚したいよ……」「何？このおっさんの声……」「結婚したいよ……」「ああ、噂の幽霊か。そうですわー結婚したいですわー」「結婚したい」「は？」とても幽霊には見えない、普通のおっさんが現れる。「結婚……したい……」「何これ」「したいよう……」「普通のおっさんやん」どうみてもただの不審者なので警察を呼ぼうとする洋美。それを必死に止めるおっさん。「お止めなさい。一般の方には、私は見えないのですよ。頭が可笑しい人扱いされますよ」「だったら警察を呼んでも大丈夫ですよ？見えないんだから」「いや、でも、万が一見える人がきたら困るし」「はあ？お前一体何なんだよ？」自分が地縛霊である事、自分の名前すら忘れてしまった事、人によって見えたり見えなかったりする事を伝えるチョコ太郎。やはり納得できない洋美。チャイム音。
- 8、リュックを背負い、右手にカエルのパペットをはめた亜耶、登場。「亜耶ちゃん？」「洋美お姉ちゃん……！！」洋美に泣きつく亜耶。「洋美お姉ちゃん、私、家出てきた」洋「ええ！？」チ「そりやまたどうして？」洋「お前は黙れよ」チョコ太郎に驚く亜耶。亜耶の眼にはちゃんと幽霊に見えるらしい。洋美、戸惑う。お金はあるから洋美と一緒に暮らしたいと伝える亜耶。亜耶の通帳を見て驚く洋美。洋「！？どうしたの、この大金」亜「……遺産」洋「え」亜「お父さんの、遺産」洋「……」少し怯むが、やはり色々な意味で困るからお家に帰る様諭す洋美。亜「そんな……！あ、チョコ！チョコもあるよ！チョコも食べる？」洋「も、って何だよいらねえよ」チ「お、こりやまた美味しそうですねえ」亜耶、幽霊にチョコ太郎と名づける。
- 9、改めて、家出の理由を問う洋美。亜「最終的なきっかけは、母に、(アドリブで)を捨てられた事でした」洋「(アドリブで)？」亜「この子(カエル)の双子の妹です」洋「妹？」チ「それは興味深い」亜耶、カエルのパペットが自分にとっていかに大切かという事、母親の柳子に、断捨離と称してカエルのパペットを1匹捨てられた時の事を、不思議ちゃんチックに語る(その際、柳子も登場)  
柳「世界には私達よりも恵まれない子供達がたくさんいるわ。だから、断捨離したの」  
亜「意味が分からない。え、何？寄付したって事？」柳「違うわ。断捨離したの」
- 10、意味が分からな過ぎて家出する亜耶。そして、洋美が一人暮らしを始めた事を思い出し、洋美のマンションに来た旨を洋美に伝える。洋「何でよりもよって私の家なの？」亜「だって、他に行く当てないもん。友達いないもん」柳「そうなの。この子、友達いないの」亜「！？」回想シーンの登場人物だと思われていた柳子、いつの間にか居る。ドアが開いてたから勝手に入ったとの事。亜耶と柳子の親子喧嘩。意味深な言葉が飛び交う中、複雑な顔をする洋美。一体、何があったのかと問うチョコ太郎。柳「え、何このおっさんの声」チ「初めまして。チョコ太郎です」→亜耶の回想へ。
- 11、美鈴登場。亜耶に、自分の結婚式に来てほしい旨をメールで何度か伝える。亜「五月蠅い黙れ！私のお父さんを奪って行ったくせに！……と、言ってしまうたら、どんなに良かったでしょうか」美鈴と亜耶が、小学校の入学式以来の大親友だった事、美鈴が喜ぶから、カエルを手放せなかった事。家族ぐるみで仲が良かった事。美鈴親子へのコンプレックスの事、父親が佳子に略奪された事。柳子が意外と平気そうなのが逆に許せないのにうまく言葉にできない事。色んな葛藤を語りつつ、最終的にはみんな

ぶっ壊れる！大嫌い！！と、暴れる亜耶。

- 12、しんみりする一同。そんな亜耶の葛藤には気づいていた。だから、開放してあげたくてカエルを捨てたと亜耶に伝える柳子。亜「だったら最初からそう言ってよ」柳「ごめんなさいね。私、口下手なの」亜「限度があるよ」仲直りの空気。良かった良かった。さあ帰れ。となっている洋美。チョコ太郎、急な頭痛に襲われる。チ「う、何か、思い出しそう……」亜「てかお母さん。どうしてここが分かったの？」柳「あ、そうだった。あのね、亜耶」美鈴「亜耶ちゃん」亜「！？」佳子&美鈴、なかなか消えない回想シーンの登場人物だと思ったら、柳子と一緒に来て来た実物だった事が発覚。柳「どうせ亜耶ちゃんの事だから、そのうち帰ってくると思って待ってたの。そしたら、佳子さん達がうちに来てね、洋美ちゃんの家も、佳子さんに教えてもらったの」
- 13、昔の事は謝るから、どうか娘の結婚式に参加してくださいと懇願する佳子。親友である亜耶に参加してほしい。これをきっかけに仲直りしてほしいと伝える美鈴。全員で議論開始。喧嘩みたいになる（途中で、チョコ太郎が誰に見えて誰に見えてないのかが分かる。洋美、佳子、庵→姿がはっきり見える。亜耶→姿がぼんやり見える。柳子→声だけ聞こえる。光鈴→何も見えない。美鈴、自分もチョコ太郎を見たいとがっかりする）亜「なんで私なの？みーちゃんには、お友達いっぱいいるじゃん！彼氏、いや、旦那さんもいるじゃん！何で私に執着するの？」美「するよ！するに決まってるじゃん！だって、美鈴ちゃんは私の親友だもん」亜耶に執着する理由を話す美鈴。頭痛が続くチョコ太郎。早く全員に帰って欲しい洋美。チャイム音。
- 14、ウエディングドレス姿の庵、登場。突然の不審者に戸惑う一同。庵「このソファー、このテーブル……！？出しなさいよ。…あのブス！出しなさいよ！？」洋「はあ？…え、天島さん？あ、あの節はお世話に」庵「あのブスだよ！上原野乃花！」洋「え、上原って、あの上原ですか？」庵「やっぱり！？」洋「やっぱり？」  
庵の回想シーン。今までの残念な人生にもめげず、やっとの思いでダーリンをゲットしたにも関わらず、結婚式当日に野乃花にダーリンを奪われ、そのまま発狂し、嫌な予感がして新居に向かったらもぬけの殻になっていたとの事。玄関に変な凹みがあったから鉛筆で擦り出ししてみたら、洋美の住所が出てきた事等を語る。洋「何してくれてんのあの子……！？」チ「う！？」このタイミングでチョコ太郎の記憶に戻る。
- 15、自分の本名が森山平六である事、普通の農民だった事、幼馴染のおきよに恋していたが、おきよは別の男と結婚してしまい、自分は流行り病で死んでしまった事を語る。普通の農民かよつまらねえなとみんなが野次を飛ばす中、庵がチョコ太郎に一目惚れ。庵「私、この人と結婚する！」チ「マジで！？う！」チョコ太郎、成仏しかける。
- 16、庵「待つて待つて待つて！今のなし今のなし！！」チ「あ、分かりましたー」どうやら満足したらチョコ太郎が成仏してしまう事が発覚。庵「そんな、せっかく出逢えたのに」チ「そんな、せっかく結婚できそうだったのに」洋「あの、外でやってくれませんか？」チ「あ、地縛霊なんで」洋「(舌打ち)」庵「あ、そっか。私が死ぬば良いんだ」洋「はい？」自分も死んで幽霊になったら結婚できる！これでみんな幸せ！と狂った事を言う庵。戸惑う一同。美「そんなの、絶対に、ダメです」庵「どうして？」美「どうしてって……悲しいから」庵、冷笑。美鈴が世間知らずの恵まれたお嬢様であると罵る。佳子「知ったような事を言わないで！私達のこと、何にも知らないくせに」佳子、美鈴や自分が今までどれだけ苦労してきたのかを庵に語る。どんなに辛い

時も、美鈴の笑顔が救ってくれた。と。庵、悲劇のヒロインぶってんじゃねえお前等と私と一緒にするな。お前等には私の気持ちが分からない。と、キレル。美「はい。分かりません。でも、ダメです。死んだら、ダメです」庵「私、あんたみたいな女、大っ嫌い」庵、自殺しようとする。チ「や、止めてください！」庵「うるせえ！私が幸せにしてやるから、私が死ぬ所、黙ってみてろ！？」チ「いやあああああ！！？」洋美、庵をビンタ。

- 17、洋美、庵に説教する。悲劇のヒロインぶってるのはどっちだ？八つ当たりするな。みんな、どんなに辛くてもカッコ悪くても這いつくばって生きてるんだよ。てか、振り回される家族の身にもなれ！？と。ちょっとショックを受ける佳子と、少しだけ冷静になる庵。チョコ太郎、大人しくなった庵に胸キュンし、ここで初めて恋に落ちる。チ「この気持ち……そうか。僕は、結婚をしたかったんじゃない。この切なくて愛憎しい贅沢な気持ちを、誰かと共有したかったんだ。誰かに伝えたかったんだ。誰かと、一緒になりたいかったんだ！！」庵「チョコ太郎さん！！」チ「庵さん！僕を愛してくれて、本当にありがとうございます！！僕も、貴女が好きです！愛してます！！僕は、貴女と一緒にになりたい！！」庵「チョコ太郎さん！！」チ「森山平六です！！」美「あ」突然、美鈴にもチョコ太郎が見える様になる。喜ぶ美鈴。チョコ太郎が自分を見て欲しいと心の底から思ったから、チョコ太郎の姿が見える様になったのでは？と予想する一同。柳「もしかして、頑張ったら、世界中の人に見える様になるんじゃない？」
- 18、庵「！？」洋「そんなバカな事」庵「世界中の人に見えるなら生きてるのも同じ！！平ちゃん頑張って！！」チ「平ちゃん？」庵「頑張って平ちゃん！！」平「うおおおおおお！！」チョコ太郎&庵、滅茶苦茶頑張る。やがて平六、世界中の人から認識される様になった代わりに、幽霊から悪魔に進化する。平「俺の名前を言ってみろ！」庵「平ちゃん！」平六、庵、抱き合う。感動するその他の面々。美「お母さん……私も、幸せになる。だから、お母さんも、幸せを諦めないで」佳「うん」洋「あーあ」
- 19、後日談。洋美と亜耶がLINE通話をしている。亜耶、美鈴の結婚式に行った事、親友としてスピーチした事。みんなから白い目で見られた事を伝える。亜「私、ずっと、苦しかった。もがいてた。誰がどう見ても、ただの女の子に見える普通の女の子か、特別すぎる女の子になりたかった。でもね、お姫様みたいな姿で顔をクシャクシャにしてボロ泣きしてるみーちゃんと佳子さんを見てたらね、私を白い目で見てくる豪華なドレスや贅沢な料理に囲まれた人達を見てたらね、そんな中で、誰よりも嬉しそうに笑っているお母さんを見てたらね、私、分かったよ。私が一番欲しかったもの。やっと、やっと見つけられたの」亜耶、退場。洋美、チョコ太郎が「見える触れる4D悪魔」としてYoutuberデビューした後、洋美のマンションが国の重要指定文化財に認定され、いたたまれなくなり、チョコ太郎の妻でありマネージャーでもある庵にマンションを売却した旨を語る。庵と洋美の会話。庵「だから言ったでしょう？幸せは、頑張っていれば、いつか必ず辿り着くって」洋「みんな死ぬ！とか言ってた癖に」庵「えー、そうでしたっけ？」庵、洋美にアヒルの人形を手渡す。洋「え？」庵「私と平六さんを出逢わせてくれたお礼です」洋美「要りません」庵「そんな事言わずに」洋「いや、あの、マジで要りません」庵、無理矢理押し付ける。庵「ブーケトス」洋「はっ倒すぞ」庵「今度は、洋美さんが、幸せになる番です。洋美さんは、こんなに可愛いアヒルの子なんですから」庵、退場。洋美、アヒルを見て少しだけ笑う。(終)